（法第 10 条第 1 項第 7 号関係）

令和元年度の事業計画書

平成３１年４月１日から令和２年３月３１日まで

ＮＰＯ法人３．１１こども文庫

1　事業実施の方針

令和元年度は、過去 6 ヵ年に引き続き各種事業に取り組みながら、今年度からは 3 年後の事業展開を見据え、こども文庫にじ、みず、おひさまの 3 つの文庫事業、「ふくしまそうまの子どものえがく大切な絵展」等の展覧会事業、東京都新宿区で開催された新宿クリエイターズフェスタ、練馬区のこどもアートアドベンチャーなど被災地と各地をつなげる事業等の見直しを行う。そのための運営方法等の検討を行う。

2　事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名（定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施予定日時 (B)当該事業の実施予定場所 (C)従事者の予定人数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支予算書の事業費の金額（単位：千円）
「こども文庫」	■にじ（通称にじ文庫） 平成 24 年度に福島県相馬市に設置したこども文庫「にじ」の維持管理を含めた運営業務等。絵本のつどいやブックトーク、ワークショップなども併せて実施。 ■みず（通称みず文庫） ・平成 25 年 6 月に開設したこども文庫「みず」の維持管理を含めた運営業務等のほか、絵本のつどいやブックトーク、ワークショップなども実施。 ・天栄村などで地域のこどもたちと被災地のこどたちとの相互理解を通じて支援の輪を広めるための「3 月 11 日の、あのね。」展などの実施。 これまで積み立てた資金及び寄付を運営に充当する。	(A)随時 (B)相馬市 (C)運営 8 人	(D)福島県相馬市の親子 (E)年間延べ約　1,000 人以上	500

	■おひさま（通称おひさま文庫） ・平成30年11月に開設したこども文庫「おひさま」の維持管理を含めた運営業務等のほか、絵本のつどいやブックトーク、ワークショップなども実施。 ・おひさま放課後クラブを併設し、こどもたちが放課後に安心して過ごせる居場所提供事業の実施。 ・近隣の小学校等での「3月11日の、あのね。」展を震災学習と絡めて実施 各文庫の運営にはこれまで積み立てた資金及び寄付を運営に充当する。 ※東日本大震災草の根支援組織応援基金（(平成31年度振込済）申請			
「こばこ文庫」事業	福島県相馬市の小学校を中心に、文庫箱を配置し、巡回させる。また、その管理。費用は、「こども文庫」事業費から充当する。	(A)随時 (B)相馬市の各小学校(約10校) (C)5人	(D)相馬市の小学生 (E)年間延べ約1,000人以上	0
絵本の管理・配布事業	寄付された絵本の受入、仕分け作業、管理とその配布。費用は、「こども文庫」事業費から充当する。	(A)随時 (B)相馬市の倉庫 (C)5人	(D)(E) 絵本配布先の対象者全て	0
「ふくしまそうまの子どものえがく大切な絵展」等の展覧会事業	全国から招へいがあった地域の団体との共催で開催。年間3回以上を想定。各種交渉、契約、チラシ等の作成対応、絵画等の発送、関連ワークショップや講演会の手配。原則費用は主催側負担。 ※主な事業 ・「ふくしまそうまの子どものえがく大切な絵展」（新宿区） ・「3月11日の、あのね。」(全労済)	(A)随時 (B)日本全国の公共、民間施設 (C)30人	(D)(E) 各展覧会が対象とする来場者全て	0

講演会等講師派遣事業	講演会、ワークショップの依頼があった場合の、派遣講師との日程調整、資料作成、講師派遣。	(A)随時 (B)日本全国からの依頼により決定 (C)5人	(D)(E) 各講演会等が対象とする来場者全て	0
この法人の広報・情報発信事業	団体活動紹介等のリーフレットの作成、配布。各種ワークショップ、展覧会等を開催したい方向けの資料作成、配布。寄付していただいた方への進捗報告や感謝状の発送。ＷＥＢを活用した広報活動。各種、メディアへのプレスリリース。	(A)随時 (B)東京、相馬等 (C)5人	(D)(E) 各広報にて配布される対象者全て	11
その他、この法人の目的の達成のために必要な事業	各種補助金・助成金を申請し、復興支援につながる支援事業を行う。さらにはボランティアスタッフ等の人材の発掘・育成事業。各復興支援団体・法人との提携の模索。 ※主な事業 ・新宿クリエイターズ・フェスタ2019業務委託 ・練馬区　2019こどもアートアドベンチャー業務委託 ・他こども文庫等の支援	(A)随時 (B)東京、相馬等 (C)60人	(D)各事業に応じて対象が異なる。 (E)約10,000人以上	7,003

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施予定日時 (B)当該事業の実施予定場所 (C)従事者の予定人数	収支予算書の事業費の金額 (単位:千円)
書籍・グッズ等の物品販売事業	協力会社と協働で、支援商品等の開発、販売。	(A)随時 (B)開発は東京、販売は全国各地 (C)5人	51